

平成 21 年度 第 1 回中標津町都市計画マスタープラン策定委員会会議議事録

◇開催日時：平成 21 年 1 月 6 日（金）9:30～11:45

◇開催場所：中標津町役場 301 会議室

◇参集者：委員 21 名中 19 名出席

1.【委嘱状の交付】

出席委員 19 名に交付

2. 挨拶 中標津町長 小林 実

皆さんおはようございます。時節柄大変お忙しい中、中標津町都市計画マスタープラン策定委員会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

皆様方には日頃より町政全般にわたって、さまざまな形でまちづくりに対し、ご理解とご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

昨日はまちづくりフォーラムを開催させていただきましたけれども、小林教授には大変貴重なご講演をいただきました。町民のまちづくりに対する意識向上が図られたのではないかなと、そのように思っているところです。

山本先生におかれましても大変貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。

今後、尚一層のご指導をいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

また、参加をいただきました委員の方々にも、ワークショップ等でいろいろなご意見をいただきありがとうございました。

先程、小林先生をはじめ、皆様方には都市マスの策定委員の就任につきまして快くお引き受けをいただき、委嘱状の交付をさせていただきました。改めて町の振興発展のためご苦勞をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。

さて、中標津町都市計画マスタープランにつきましては、計画期間を 20 年として、平成 13 年度にスタートし来年度で中間年を迎えることになります。今までの社会情勢の変化等を踏まえ、この中間年で一旦、今までの実績、課題等を総合的に検証いたしまして、平成 20 年 3 月の都市計画審議会、あるいは景観審議会の両審議会からの答申を踏まえまして、今後の中標津町のあり方について、住民の皆さんと共に 2 カ年をかけまして見直しを行ってまいりたいと考えております。

本策定委員会は学識経験者、各地域、各種団体の代表、そして公募をいたしました町民の方、町職員により構成しております。様々な角度から多様なご意見をいただきながら、町民に示す原案の最終検討、調整を行う組織として立ち上げをさせていただきました。

委員の皆様には愛着のある中標津のため、夢のある、実り多きプランとなりますよう積極的なご審議をよろしくお願い申し上げます。

特に今回の見直しについての考え方は私の公約としております中心市街地活性化の課題にも取り組み、町民の皆様と議論を重ねながら、活力あふれる市街地としての展望が開かれることに期待しております。

本日の審議内容でございますが、都市計画マスタープランの見直しの目的、策定体制、スケジュール、今までの実績を総合的に検証したものを説明させていただき、ご審議を賜りたいと存じます。

最後になりますけれども、小林先生をはじめ、委員皆様には大変、ご尽力をいただくことになりますけれども、どうぞよろしくお願い致します。

【学識者の紹介】

北海道大学大学院教授 小林英嗣氏

北海道大学大学院工学研究科で建築都市空間デザインを専攻する教授でございます。‘臨床都市計画’を身上に全国の自治体とまちづくり活動の後方支援を行っていらっしゃる先生でございまして、当中標津町におきましても、長年にわたり中標津町の都市計画におきまして多大なご尽力をいただいております。また、平成 12 年度に策定しました都市計画マスタープラン策定時にも関わり、中標津町のために大変ご尽力をいただいております。

明治大学理工学部建築学科准教授 山本俊哉氏

今回の策定委員会の学識者として小林先生からご紹介をいただきました。先生におかれましては大学研究者として地域のまちづくりを支援されており、安全・安心なまちづくりの第一人者として広い分野で活躍されている先生でございます。

3. 委員長、副委員長の選出

委員長 小林英嗣氏 (北海道大学大学院教授)

副委員長 栗崎勝秀氏 (NPO 法人伝成館まちづくり協議会副代表)

4. 小林委員長、山本准教授より挨拶及び話題提供

小林委員長

- ◇都市計画法が変わり、分かりにくい都市計画というのではなくて地域の方が参加して、地域の方といっしょに実現していく都市計画にすべきだということで、全国で都市計画マスタープランをつくり始めました。
- ◇地域の方々が今一番重要だと思っていること、身近で解決していかなければいけないと思っていることは何かということを知り出して、少し時間をかけて解決していこうというのをわかりやすく皆で確認すること。
- ◇平成13年につくった中標津町都市計画マスタープランというのは、全戸に誌面にしたものを折りたたんで配付したのです。こういうまちは実は無いのです。そういうことも含めて中標津の最初の都市計画マスタープランというのは内容と進め方というのを注目された。
- ◇都市計画というのは時間がかかるので、成果が見えにくいということもある。
- ◇皆でつくったものを担当係だけで進めていくのは不可能なのです。
住民参加でやるという左の車と庁内の全職員全係が参加してやっていく右の車と左の車が両方動かないとダメなのです。つくることも大事なのですが、庁内の中で協力しながら町民の方とも連携しながら、つくった後もお互い実行し確認しあってやっていくというテーブルを持つことが大事。
- ◇中標津のようにコンパクトな商業集積あるいは公共集積があって、それに頼りながら独自の生活、生活の仕方がゆったりとできるものを周辺に置いている。こういうまちというのは、段々無くなってきています。ここで大きな都市ではなくて3万人くらいの規模でモデルとしてキラリと光る姿を描き出すのも、21世紀の都市のある意味で優等生の答えになるのではないかなと思います。
- ◇身近なことをベースにお話ししていただければ、中標津の3万人のキラリとしたモデルができるというように思います。
- ◇共生型地域環境圏(社会)再生への原理に書かれているキーワードを頭に留めていただきながら、これからのマスタープランを考えていただければと思います。
 1. 環境にやさしく、持続的なまちづくり
 2. コンパクトで歩いて楽しいまちづくり
 3. 協働によるまち育て、市民力による暮らしの場と居場所づくり
 4. 起業によるまち産業・コミュニティ産業おこし
 5. 暮らしの質を優先し、身近な環境を重視した安心・安全のまちづくり
 6. 住民、まちづくりNPO、企業、行政、専門家のパートナーシップづくり
 7. 景観を重視し、地域の誇りや個性を生かした美しい町・田園の風格づくり
 8. 高齢者・障害者を街なかと呼べる公共交通中心のまちづくり
 9. 地域と大学の開かれた連携とネットワーク構築によるまちの再生
 10. 景観まちづくりにおける住民の自律的運営による生活環境の回復

山本委員

- ◇この10年間で更に少子高齢化が進んできて、地球環境の問題もかなり深刻化してきて、そして安全な地域づくりの意識が高まっている。
- ◇犯罪の件数が今から10年ほど前に戻った。ピークだったのが池田小学校の事件と同時多発テロの次の年です。そこからずっと下がってきています。犯罪率は人口で割っていきますと今から50年ほど前よりずっと下がっています。殺人も強姦も下がっています。いろいろな面で安全になってきている。
- ◇自殺が問題になってきていますが、50代は減ってきています。60代、70代は病気の問題と絡んでいる。増えているのが30代です。30代で将来が見通せない。これをどうしていくのか。将来にわたっても夢のあるようなまちにしていこうということも求められている。
- ◇これからのまちづくりは社会資本をつくっていくことも大事だが、これまで持っていたコミュニティ、社会関係資本というものをどういうふうにうまくつなげていくのか、たぶんそれが私は共助だと思う。その時に内部指向型ではなくて、お互いに橋を渡していくことが大切だと思う。

- ◇私の研究室で今、2つのホームページで小学校区のホームページを応援している。
- ◇ホームページで実際にやっているまちづくりをライブでどんどん入れていくことをやっています。
まちづくりの計画をつくるのですが、防犯まちづくり計画、花いっぱい運動をやったりですとか、あいさつ運動をやったと言うやわらかい感じのものです。ここにいくつかの自治会、商店街、PTA等が入ります。それぞれの団体でそれぞれに皆さんいろいろな形で一生懸命やっている。よその子たちにはなかなか言えない、でも自分たちがやっているということを皆さんに知ってほしい。それらをさりげなく一つのホームページでまとめています。
- ◇たぶん10年するとインターネットはもっともっと身近な存在になってくるというように思います。これは経済的な発展ともかなり結びついてくると思います。

5. 議事（審議）

【事務局より議案に基づき説明】

1. 都市計画マスタープランとは・・・？
2. 中標津町都市計画マスタープランの見直しの目的
3. 都市マスの策定体制
4. 都市マス見直しのスケジュール

～委員了承～

【事務局より議案に基づき説明】

5. 現都市マスが目指す方向性と取組実績
 6. 整備、開発及び保全の方針（案）の策定について
- ～委員了承～



6. 委員からの発言

- ◇この都市計画マスタープランは平成32年までですが、その後の都市計画マスタープランについては間髪を容れず、平成33年から新たな20年の計画として再スタートすると認識してよいのか？
- ◇事務局：今回は中間見直しということですので、32年の段階では、また新たに20年先の部分の新たな策定という形になります。
- ◇中標津のまちが今置かれている状態が、一番望ましい状態なのだと私は感じている。
- ◇都会化を目指すのではなくて、とにかく今のままの中標津をどう守るか。まさにコンパクトな素晴らしいまちにしていくのにこれからどう考えていけばいいか、というところに関わっていけるのかなと思っている。都市計画の景観とかそういう方面よりもどちらかというと心の方の問題に興味があるので、そちらから協力できればと思っている。
- ◇保養所温泉あたりを中核にして高齢者向け住宅を建て、市街地から歩いていける場所で自給の里づくりをする。自分たちで農業をやったり、高齢者はそこに出かけて行くか、そこで暮らす。若者や孫を連れて行っていっしょにやる。あの場所は最高の場所ではないかと前から思っていた。
- ◇策定委員会の進め方の中で、次回の課題のどういうところが焦点になるかをあらかじめ言っていて、自分なりに考えてみたい。
中標津で一番素晴らしいと思っているのが、緑の環境です。環境の問題に関心を持つ町民が一人でも二人でも増えることを町内会としてささやかではあるが心がけていきたいと思っている。
この会に委員として参加させていただいていることに対しては自分でもいろいろと勉強させていただいて努力したいと思っています。
- ◇人と人とのつきあい、人と人との絆が希薄になってきたのではないかと肌を感じてきている。
- ◇支えあう地域にして、この地域に移ってきてよかったなと思える環境づくりにしようと、町内会の人と話を進めている。
- ◇100年先、1000年先を見通すのであれば、精神的な人と人との絆の見直しをテーマとして提案をしていきたい。
- ◇町内会として都市マスの中にどのように生かしていくのか、これから考えていかなければならないと思っている。
- ◇中標津はすごく文化が眠っている。水がとてもおいしい。そしてグリーンで裸足で歩けるようなまちに出来たらと思います。

- ◇「一人が変われば周りが変わり、地域が変わり、日本が変わり、世界が変わる」意識改革を自分から発していきたいと思っている。
- ◇子どもがここで育っていくのに、どういうまちになるのかなというのを見てみたい。それからそれを自分が参加をして今までのプランを確認してみたい。
- ◇バイパスに信号が付いたことですが、すごく不便だなとつくづく思った。
まちの中心部の道路を拡張して通りやすい道にしたり、公園など皆が集まる場所をつくるといいのかなと思う。
- ◇都市マスは総合計画の一分野としてきちっと機能するようにつくり方をすべきだと思うし、その計画に位置付け予算や事業の関連性ですとか、その中で質や量の管理を含めてするようなことをした方がいいのではないかと感じた。
- ◇都市計画で都市マスだけやってもダメな話です。農業関係ですとか教育や文化、観光だとかいろいろな分野があると思います。各分野でそれぞれマスタープランのようなものをつくっていくのがいいのかなと思う。
- ◇丸山公園、森林公園、そのほかに高校の白樺並木、タワラマップ川など、うまく連動して歩く道をたくさん増やしていくとおもしろいのではないかなと感じる。
- ◇まちのなかに緑が多いのですが、木や花が無い。ヨーロッパですとか海外の大きな都市に行きますと、ものすごく大きな花壇があって、すごくきれいに見えるので、人がたくさん集まってくる。
釧路、根室管内にはそういうのはほとんど無いのでわりとチャンスなのかなと感じがしている。例えばJR跡地などの活用も考えなければいけないと思う。
- ◇平成13年には福祉センターが無かった。子育て支援センターが無かった。ハードなものをどこに建てなければいけないのか、これも都市計画の中の一つ。
- ◇空洞化されたところに高齢者の方が住めるような住居を構えた方がいいのか、それから集約した方がいいのか、とかいろいろ考えている。
- ◇10年前、都市マスをつくる時に皆さんの協力をもらってエネルギーを出してもらって作ったのですが、いざ、その計画書を実行するというのがすごく難しかった。
- ◇出来上がったあとも行政の横の連携で実施していくのだという意識を職員の中で持ってもらい、町内会でも出来上がって10年間、ストーリーをつくってストーリーを実行していくプロセスを大事にしていかなければならないと思っている。

7. 閉会

事務局：次回の策定委員会ですけれども今の時点で12月中頃を予定しています。内容と致しましては都市づくりの話題と将来像をテーマにした大きな方針の骨格につきまして庁内推進会議で検討したものにつきまして、説明させていただきたいと考えております。それではこれにて第1回策定委員会を終了いたします。長時間にわたり、大変ありがとうございました。